



学校だより

12月号
横浜市立桜台小学校
令和3年11月30日発行

成長するためにできること ～前向きな気持ちをもって～

児童支援専任 釘持 裕司

11月6日(土)天候にも恵まれ、運動会を実施することができました。運動会開催におきましては、皆様方の多岐にわたってのご理解ご協力に感謝申し上げます。児童一人ひとりが運動会での経験を糧に成長していけるよう見守っていきたいと思いますので、これからもよろしくお願いいたします。

子どもたちは、「運動会を成功させる」という大きな目標に向かって、たくさんの取り組みをしてきました。ダンスを覚えること、速く走れるようになること、縄跳びを上手に跳べるようにすることなど一人ひとり努力の仕方は違いますし、その状況も異なります。しかしながら、みんなが同じ運動会という舞台に立って活動するのです。順位や出来ばえに一喜一憂する気持ちも分かりますが、それ以上に自分の目標を決め、それを達成していくことが大切なことだと思います。また、その達成感が自信になり、子どもたちの生活を豊かにしていくのだと思います。この運動会でも、種目以外の活動で各係、開閉会式に関わる役割、応援団など様々なところで児童の活躍が見られました。こういった児童一人ひとりに合わせた活躍の場があるのは価値あることだと再認識しました。

子どもたち一人ひとりできることは違いますし、個性も異なります。周りと比べるのではなく、自分のベストの力が発揮できるように目標を設定し、それが実現できるようにどんなサポートができるかが大人の役割だと思います。スモールステップでいいのです。その繰り返し大きな目標の達成につながります。

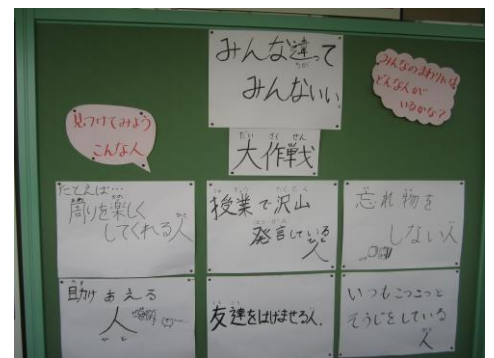
思い起こせば、入学直後の1年生は給食の準備で牛乳缶を重たそうに持ち、1段1段ゆっくり上っていました。今では友達と協力し、慣れた足どりですばやく階段を上っていきます。昨年は委員会活動を自信なさそうにしていた6年生が、今では自ら進んで活動し、5年生をリードしています。日々の変化は微々たるものかもしれませんが、その成長を確認しながら前向きに進んでいくことが大切だと思います。

さて、12月は横浜市いじめ防止啓発月間です。みんなが一人ひとりの個性を認めながら前向きに成長し活動できるようにしていきたいものです。

いじめをなくすには、相手を理解することと自己肯定感をもてるようにすることが大切だと思います。例えば、ミスをした相手に対して「次頑張ればいいよ」「ドンマイ」「しっかりしろ」どれも愛情をもって、その相手に対してかけた言葉だとしても、受け取る側の認識によっては異なる解釈になります。「皮肉を言われた」「悪口を言われた」「嫌な思いをさせられた」ということにもなります。つまり、言葉をかける側は相手の様子を感じて、どんな言葉をかければよいか考えること、言葉を受け取る側は前向きなとらえ方ができるようにすることが大切だと思います。

相手が今、何を考えているかを想像することは人を助けることにつながります。また、困っている人を救おうとする気持ちは優しい気持ちもつくります。相手の気持ちを理解することは和んだ雰囲気をつくります。和んだ雰囲気の中では、自分の表現がしやすいものです。自己肯定感がもちやすくなります。このような好循環を一朝一夕につくることは難しいですが、そのような環境になることを目指していきたいと思います。

ご家庭でもいじめをなくすために必要なことをお子さんとご一考いただければ有難いです。



(スマイルルーム前にある掲示板)